

重点目標を達成するための学校評価

札幌市立大谷地東小学校

I はじめに

学校改善に結び付いた学校評価



縦割りのスマイル遠足

1 本校における学校評価のねらい

本校では体験を重視し多様な人々との豊かなかかわりを通した『人間関係力の育成』を重点目標に掲げ、「確かな学力の育成」、「豊かな心と温かい人間関係の育成」、「安心安全な学校づくり」など、その具現化に向けた教育課程を編成している。

本校の学校関係者評価では、『人間関係力の育成』の達成に向けて、自己評価の客観性を高め、教職員と地域住民・保護者が学校経営の現状と課題について共通理解を持ち、連携して教育活動を推進していくことが重要と考えている。

具体的には、いくつかの項目で保護者や児童から自己評価と同じ内容でアンケートを実施し、教職員の評価とのずれに着目した学校評価を実施している。本校の教育をより確かなものにするために、保護者・地域が一体となり教育活動の改善に共に取り組み、「信頼される学校」を創り上げていくことをねらっている。

II 本校の学校評価システム

学校評価システム

1 自己評価と評価委員会

本校では教育課程学校評価委員会を校務分掌に位置づけ、教育課程推進の中核を担っている。学校評価にかかわる評価項目と観点の設定は大きな業務のひとつで、校長の学校経営方針と重点をもとに、委員会で評価分野と項目を設定している。また、自己評価や保護者アンケートの声からただちに改善するものと長期的な見通しをもって改善に取り組むものに分類し、委員会としての見解をまとめたり、担当部に改善案の検討をお願いしている。

自己評価書の形式は中間評価では項目の観点ごと評価をしてもらい、年度末評価は項目と同時に校務分掌の業務にかかわる点については自由記述式で答える形の2本立てで実施している。

委員会は教務主任を中心に総務と各校務部長ならびに教頭で組織している。「年間の見とおし」を重視し、教務主任が中心となり評価の年間計画を立て実施している。また、評価の全体会では委員会で司会と記録を担当している。

2 学校関係者評価委員会

自己評価（中間評価・年度末評価）が適切に行われているか、学校改善に向けての取り組みが適切に行われているかを評価していただいている。評価の手順としては学校関係者評価委員に自己評価と改善策を記載した評価書を事前に渡し見ていただいている。

委員会当日、学校側から自己評価の内容・方法・改善策などについて説明を受け、項目ごとに評価をいただいている。改善点や意見については、学校関係者評価書にまとめ、ホームページや学校だより学校教育説明会を通して保護者に公表している。

Ⅲ 学校評価の年間の流れ

	自己評価				学校関係者評価
	学校(教職員)	児童	保護者	地 域	学校関係者評価委員会
4	<input checked="" type="checkbox"/> 学校経営方針の周知・確認 <input type="checkbox"/> 集団下校訓練 <input type="checkbox"/> 学習参観・懇談(PTA総会) <input type="checkbox"/> 家庭訪問	・全国学力 学習状況調査 ・知能検査(2・5年) ・学力検査(2年以上)	・PTA総会への参加 ・家庭訪問での聞き取り		
5	<input checked="" type="checkbox"/> 学校教育説明会 <input type="checkbox"/> 学習参観・懇談 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の重点、評価分野の決定		・懇談会での聞き取り ・PTA運営委員会		第1回学校関係者評価委員会 経営方針 重点 ・学校教育説明会参加
6	<input type="checkbox"/> 運動会 <input checked="" type="checkbox"/> 評価項目の検討・決定	・振り返りカード	・運動会に関する調査 (会場に用紙設置)	・健全育成委員会 厚別南中	・運動会観覧
7	<input type="checkbox"/> 学習参観・懇談 <input type="checkbox"/> 防犯・防災児童引取り訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 学力検査、いじめ調査の分析 <input checked="" type="checkbox"/> 評価用紙作成・配布	・いじめ実態調査 (本校独自)	・懇談会での聞き取り ・PTA運営委員会	・厚別南地区 町づくり会議	・防犯・防災児童引取り訓練
8	<input checked="" type="checkbox"/> 教育課程学校評価委員会 分析・後期への方向性と改善				
9	<input checked="" type="checkbox"/> 中間評価全体会 (評価のまとめ 各部の改善策の検討) <input type="checkbox"/> 土曜参観・地域公開デー <input type="checkbox"/> 通知表配布 <input type="checkbox"/> 不審者対策避難訓練		・地域公開日に関する調査 (会場に用紙設置) ・PTA運営委員会	・厚別南地区 町づくり会議	・土曜参観・地域公開の参観 (やちとんまつり)
10	<input type="checkbox"/> 個人懇談 <input type="checkbox"/> 昔むかしあったとき(3世代交流) <input checked="" type="checkbox"/> 中間評価の公表(HP)		・個人懇談での聞き取り		第2回学校関係者評価委員会 中間評価 (・3世代交流参観)
11	<input type="checkbox"/> 学習発表会	・振り返りカード ・児童アンケート	・学習発表会に関する調査 (会場に用紙設置)	・スクールゾーン 実行委員会	学習発表会観覧
12	<input type="checkbox"/> 学習参観・懇談 <input checked="" type="checkbox"/> 教育課程学校評価委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 年度末評価の実施(提出)	・札幌市のいじめに関 する調査	・懇談会での聞き取り ・PTA運営委での聞き取り ・保護者アンケート	・厚別南中学校区 4校連絡会 ・厚別南地区 青少年育成委員 会情報交流会	
1	<input type="checkbox"/> 集団下校訓練 <input checked="" type="checkbox"/> まとめと各部の改善方向 <input checked="" type="checkbox"/> 学校評価全体会				
2	<input checked="" type="checkbox"/> 次年度計画 <input type="checkbox"/> 学習参観・懇談		学習参観・懇談	・厚別南中学校区 4校連絡会	
3	<input type="checkbox"/> 卒業式 <input checked="" type="checkbox"/> 学校教育説明会 <input checked="" type="checkbox"/> 学校評価の公表(HP) <input type="checkbox"/> 通知表発行	・振り返りカード	・PTA運営委員会 学校説明会参加		卒業式出席(観覧) 学校説明会参加 第3回学校関係者評価委員会

IV 学校評価の方法

評価項目の重点化を図る

評価項目分野と
項目数・観点数

重点目標 (3) 6

学習指導 (4) 11

生徒指導 (5) 15

研 修 (3) 7

教育環境 (2) 5

保護者・地域との連携
(4) 11



三世代交流

1 自己評価

(1) 項目の設定

校長の学校経営方針を受けて、重点の「人間関係力の育成」を達成するために「重点目標」「学習指導」「生徒指導」「研修」「教育環境」「保護者・地域との連携」の6分野を起こしている。さらにそれを具体化した項目をそれぞれの分野で数項目ずつ設定し、具体的な観点に基づいて4段階で評価している。項目数と観点数は左の表に示したとおりである。

(2) 児童・保護者アンケートの実施

本校では、自己評価書に設定されている項目から特に重点目標にかかわる項目を抽出して保護者・児童に対しても同じ設問でアンケートを実施している。ねらいは教職員評価との違いを明確にし、学校評価の資料として活用するためである。

保護者・児童ともに11月から12月にかけて調査を実施し委員会で集計分析を行っている。

保護者アンケートについては自由記述欄を設け、広く声を聴けるようにしている。また、貴重な意見や感想・要望などに対して速やかな対応が出来るよう記名式にし、封筒に入れて回収するようにしている。

(3) 結果の集計と分析・自己評価書の作成

教職員評価は項目ごとに点数化し、A・B・C・Dの4段階で評価している。評価はパソコンの画面上で行い、自動計算されるようプログラムしている。入力担当が行っている。C・Dの割合が多いときには委員会や担当部で改善策や見解を出してもらっている。

保護者・児童アンケートについては集計したものを一覧表にまとめて資料としている。自由記述欄に記載された意見・感想・要望は資料としてまとめ、必要に応じて教職員評価とともに年度末評価に活用している。

児童アンケートについては担当が集計した。ただし、自由記述と保護者アンケートについては総務がまとめている。

(4) 改善策の検討

教職員評価の集約結果からC・Dの評価の多い項目や自由記述で重要と考えられる点、児童・保護者アンケートの集約結果から改善の参考となる意見・要望・感想などについては教育課程学校評価委員会で検討し、各校務部が分担し改善策や見解を出している。評価全体会では各部からの改善案に対して議論し、共通理解を深めている。

また、前期と年度末評価の評価項目が同一なので、点数化により比較ができる。評価の変動により今後の取組に対して教職員の意識を高めることができる。

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員の構成と役割

学校関係者評価委員会は学校評議員(3名)・PTA役員(2名)の5名で構成している。本校の子どもの育ちや学校の取組を日常的に見ていただける方々を中心に組織することが重要と考え、地域町内会長、体育振興会長、大学教授の方には学校評議員との兼任をお願いしている。

業務としては、自己評価の内容・方法・改善策などについて説明を受け、教育活動や学校運営が適切に行われたかどうか、教職員による自己評価が適切に行われたかどうかを10月(中間評価)と3月(年度末評価)の2回評価をいただいている。また、委員の方々には各種教育活動を理解していただくため授業参観や行事参観などを設定し、委員会の開催日以外にも学校に来ていただき、教育活動を日常的に見ていただく場を用意している。

委員会は年に3回開催し、司会は教頭、説明は教務主任、記録は総務で行っている。委員からは様々な角度から教育活動の在り方や子どもの育ちについて評価をいただいている。

(2) 学校関係者評価書の作成

評価全体会を経て今後に向けて改善の方策を明記したものを学校関係者評価書として年に2回学校関係者評価委員会の中で項目ごとに説明し、その場で適切であるのかどうか評価していただくと同時に学校運営に関する意見・要望・助言などをいただいている。

学校関係者委員から改善が必要とされる項目については、直ちに改善するもの、今後検討していくものに分け、取り組むようにしている。

V 評価結果の公表

公表方法の多様化



縦割りのスマイル遠足

1 公表の方法

本校では前期と年度末の2回学校関係者評価を実施している。前期については9月下旬に学校関係者評価委員会で自己評価と改善策の適切さについて評価を受けたあと、10月上旬にホームページで学校関係者評価書を公開している。また、各家庭にも評価書とともに説明書を添付して配付している。

年度末評価については2月下旬に委員会を開催し、3月上旬にはホームページで公開することになっている。家庭向けにも同時にお知らせすることになっている。さらに、学校教育説明会の中でも保護者に対して学校関係者評価の結果について説明することになっている。

2 公表の効果

学校の取り組みに対する保護者・地域の理解が得られるとともに意見・要望を聞く良い機会となっている。寄せられた意見に対し、学校としての姿勢を示したり改善策を提示することで、学校運営に対する理解が深まり、より協力的になってきている。ホームページを通してたくさんの人に本校の取組や主張を知ってもらえた。PTA活動も学校の重点の取組に賛同し「人間関係力の育成」と連動した運営方針を打ち出していくことなど、より家庭、地域に開かれた学校になってきている。

VI 成果と課題

《成果》

- ・重点目標に対する具体的な取組が明確になり、成果と課題がはっきりした。その結果、改善への取組がスムーズになった。
- ・重点目標を学校説明会や懇談会の中でも保護者に説明するため、学校の姿勢や取り組みを担任の口から説明する機会が多くなった。そのことにより学校運営に対する教師の参画意識が高まった。
- ・保護者には評価項目に基づいた観点を提示することにより参観日や地域公開日には、ただ子どもの様子を見るのではなく、こんな点を観て欲しいという学校の姿勢を伝えられるようになった。
- ・自己評価の項目と保護者・児童アンケートの項目をできるだけ同じにすることで評価のちがいがわかり、より客観的な改善方策を打ち出せるようになった。
- ・回収率としては高率であったが、より分かりやすい、より回答しやすい評価にすることで、回収率を更に高めていきたい。
- ・保護者アンケートの問いの趣旨が伝わらず、答えにくいものがあった。事前にPTA役員の協力を得て、内容を吟味してから全体で実施したい。
- ・アンケートに対する学校の見解と取り組みの説明責任をどのようにはたすのか、今後の検討課題である。

《課題》

【参 考 文 献】

「札幌市の学校評価」 札幌市教育委員会

1. 今年度の重点目標 人間関係力の育成を基盤とした学校経営

2. 今年度の経営方針

1) 確かな学力の育成

全教育活動を通し、基礎基本の確実な定着を図り、一人一人の子供の個性を生かし、個々の学力が伸びる授業改善に努める。

2) 豊かな心と温かい人間関係の育成

健康な心身を土台に、豊かな体験を通し生命を尊重する心や、自然を愛し、美しいものに感動する心を培うと共に、子供たち相互の温かい人間関係の育成に努める。

3) 安心安全な学校づくり

いじめや不登校が無く、子供一人一人に居場所のある学校、安心安全な学校づくりを進める。

4) 信頼される学校

子供と地域に開かれた学校を目指し、学校・家庭・地域相互の立場や役割を理解し、信頼関係を深めながら、連携・融合した教育活動を推進する。

5) 学習指導要領改定に向けた基盤作り

平成23年に実施される新学習指導要領に向け、教育課程、日課表などの検討に着手し、基盤整備を行う。

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	重点目標の内容は、学校や児童の実態から見て適切である。				
	学年・学級目標や具体的な指導の手だてを通して継続的に指導されている。				
	重点目標が教師だけでなく児童、保護者にも共通理解され取り組まれている。				
学校関係者評価者による意見					

大谷地東小学校 教育課程 保護者アンケート

年 組 記入者

次年度の教育課程の編成に向けて、保護者の皆様のお考えも聞きながら「大谷地東の教育」を推進して参りたいと考えております。つきましては、学校運営の参考にさせていただきますので、下記の質問事項につきまして、保護者の皆様のご意見をお聞きしたいと存じます。記入要領については別紙をご覧ください。

今後、より良い教育活動が提供できるよう取り組んでまいりたいと思います。今後とも本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。 12月25日(木)までに提出願います。

評価のめやす A:達成できている B:だいたい達成できている
C:あまり達成できていない D:全く達成できていない

No	質問事項	A	B	C	D	理由を書いてください。
1	スマイルタイムやスマイルサポーターの取り組みなどのように人とのかわり(人間関係力の育成)を大切にした本校の教育活動は学校や児童の実態から見て適切である。					
2	子供にとって毎日の学習は楽しくて分かりやすい。					
3	子供は毎日友だちと仲良く楽しく過ごすことができている					
4	縦割りのスマイルタイムやスマイル遠足には楽しく参加し、活動した。					
5	子供のあいさつが以前よりも定着してきている。					
6	登下校時や帰宅後の子供たちの様子から「安全に気を付ける」「ルールやマナー」などの基本的な生活習慣が身についている。					
7	自由記述欄 (お気づきの点・ご感想・ご意見・ご要望など)					

※スマイルサポーターの取り組みとは子供たちが自主的に挨拶に取り組む輪をひろめる活動です。十分取り組めるようになったと判断したら担任に自己申告し、校長先生から認定書をもらいスマイルサポーターになります。全校的などりくみでサポーターがどんどん増えるのと同時に挨拶の輪も広がっています。

分類	評価項目	評価の観点
重点目標	重点目標設定の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 「人間関係力の育成」を旨とした教育は本校の児童の実態や保護者、地域の要請に合致している。 「人間関係力の育成」を旨とした教育は、指導要領の改訂など教育の動向や、社会の要請に沿った目標で、今後も継続すべきである。
	学年・学級目標や具体的な指導の手だてを通じた継続的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 「人間関係力の育成」を旨とした様々な教育活動が取り入れられ、子供たちを育んでいる。 重点目標の具現化を旨として、学年・学級経営案が作成され、経営交流会や評価を通してより効果的な指導の手だてが練られている。
	重点目標が教師だけでなく児童、保護者にも共通理解され取り組まれている。	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標について説明会や参観日などで保護者にわかりやすく説明している。 参観や行事、PTA運営委などで、重点の達成について保護者から感想や意見を聞き、取り組みが理解されているか確かめている。
教育環境	温かな人間関係を育み、潤いのある教育環境	<ul style="list-style-type: none"> 教室では学級の取り組みの様子や子どもの育ちが見え、清潔で安全な環境づくりに努めている。 感性と情操を育むような校舎内外の環境の構成を工夫し、生命を尊重する心、美しさに感動する心を育てている。 学校環境は校風そのものであることから「この庭に花を咲かそう愛の花」をメインテーマに、美的で統一感ある環境作りに取り組んでいる。
	教材・備品、教室環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 廊下など、物をおくべきでない所に雑然とものを置かないよう学校全体の整備・整頓をしている。 全ての子供の教育活動のために、校内外の安全・衛生管理の徹底を図るとともに、いつでも活用できるようにしている。
	コミュニケーション能力を育てるために、「話す」「聞く」「話し合う」ことの基本基本を押さえた指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の確実な定着を図るため、各教科の指導内容は学習指導要領に示されている内容を最低基準として押さえ、ゆとりある授業時間を確保している。 指導方法の工夫等により、一人一人の子供に確かな学力をつける授業の改善が図られている。 さまざまな世代の人との交流や、地域を越えた交流を通して、子供たちにコミュニケーション力を育む場を設けている。
学習指導	問題解決的な学習の実践	<ul style="list-style-type: none"> 子供の持っている見方や考え方、感じ方、先行経験を生かし、一人一人が主体的に判断し、問題を解決する力を高める学習の展開を工夫している。 発達段階に応じた学びあいのルール定着を目指す取り組みがされている。 自らの課題を解決するための調べ学習として、コンピューターや図書館の効果的な活用に努めている。
	「学び合うことよさ」が実感できる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で自分の思いや考えを素直に表したり、互いに認め合ったりできる学習風土が作られている。 「子供が主体的に学ぶための教材の工夫」「自分が発揮され、高まりが実感できる集団の学びの実現」に基づいた授業実践を積極的に進め、研究課題の究明に努めている。
	基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> T・Tを活用することで子供たちの学習意欲を高め、よりきめ細かな指導を行うことができている。 基礎・基本の定着を図るため、反復練習や、家庭と連携しながら全ての子供が習熟するような指導の時間や方法を工夫している。
生徒指導	子供同士、子供と教師の信頼し合える関係づくりを目指した学年・学級経営の充実	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと教職員が互いに声をかけあい関わりあう場面が多く見られる。(休み時間や活動時間) 子どもは教職員の指導を素直に聞き入れて、気持ちよく応じようとしている。
	基本的な生活習慣の定着を図るための継続的な取り組み(日常化)	<ul style="list-style-type: none"> 「スマイルサポーター」の制度のスタートにより、子供たちの、心のこもった挨拶が定着している。 基本的な生活習慣が身につく、はじめある生活を送ろうとしている。 ルールとマナーの違いを明確にして、教職員が共通理解を持って指導に当たっている。
	異学年交流活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> スマイルタイムの中で、学年の絆をこえて子供どうしが活動を楽しみながら進んで関わろうとしている。 異学年交流活動の効果が休み時間などスマイルタイム以外の場で日常的に見られ、子供どうしが楽しく関わりあう姿が見られている。 異学年交流活動について、全職員が共通理解を持って取り組んでいる。
安心・安全な学校づくり		<ul style="list-style-type: none"> 「いじめに関する意識調査」を定期的に行うことで、いじめの早期発見、早期対応ができ、子供にとって居心地のよい学校となっている。 ふだんから子供たちの生活の様子に気を配り、いつもと違う様子が見られた時には保護者と連携を取りながら即座に話を聞いたり、指導したりするなどの対応を行っている。 防災・防犯、不審者対策など子供を危険から回避する手立てが安全対策委員会を中心に総合的に講じられている。 登下校時の安全や緊急時の行動について、学年に応じた指導がなされている。 危険に遭遇した時に、子ども自身がそれを回避するために適切に判断し、行動できるよう事前・事後に時間を取り効果をあげている。
	特別支援を必要とする児童への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 学びの支援担当者を中心に、定期的に支援を必要とする児童への教職員の共通理解が図られている。 スクールカウンセラー、学びの支援サポーター、巡回指導員など連携し、支援を必要としている児童に対して速やかな対応をしている。
	研究	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題「進んで学び、高め合う子供を育てる学校」のもと、生きる力の育成を目指し、計画的・組織的な研究が進められている。 授業研究を通して、子供の姿を確かめ、授業改善に向けて共同で取り組む研究となっている。 研究実践の成果を学年研修の中に積極的に取り入れ、研究の日常化に努めている。 教師自身が力量を高めるために、校外の研究会や研修会に積極的に参加している。 学級を空けても安心して外部の研修に参加できるよう、校内の体制ができている。 教育専門職としての力量を高めるための研修の場が設けられている。
保護者・地域との連携	新学習指導要領対応	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領について共通理解を持ち研修する場が計画され、これに向けて準備が進められている。
	保護者や地域への説明	<ul style="list-style-type: none"> 学校の情報を、学校だよりやその都度発行する文書などによりわかりやすく伝えるよう努めている。 子どもの教育活動全般にわたり、家庭や地域の方々に参観の機会を積極的に設けている。 学校説明会の開催方法を工夫したりして、教育活動送受信の機会を充実させている。
	保護者や子供からの声を反映させる手立て	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の方々の願いやアイデアを真摯に受け止め、相互理解にたつた教育活動を推進している。 児童からの声(アンケート)を学校教育に反映させようとしている。 参観・懇談、行事参観、地域公開等の計画的な設定により、保護者の声を聞き入れ、学校改善に生かす努力をしている。 子供の教育について学校、家庭、地域の役割を明確にするとともに、「共育」の観点から連携を深めている。 福祉奉仕活動の推進や、地域行事への参加などを通して、地域との関わりについて意識を高めている。 地域にある北星学園大学と連携し、学生ボランティア、チャレンジ合宿、留学生との交流、モザイクアート等の地域貢献活動に積極的に参加できるよう児童に働きかけている。
担任と保護者の相互理解	<ul style="list-style-type: none"> 子供や保護者の不安などをいち早く捉え、電話や家庭訪問で対応したり、お便りの発行により担任の願いを保護者に伝え、解決するための手だてを講じている。 保護者の話に耳を傾け、じっくり話を聞く姿勢で対応するよう努めている。 	